



月刊 労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

97.12.11 No. 4707

鴨川支部第三回定期大会開催!

鴨川支部は先頭でがんばるぞ!

一二月七日、一四時三〇分より、勝浦市・民宿「神田」において、鴨川支部第三回定期大会が開催され、恒常的スト体制を背景にして、JR-JR総連の結託体制を打ち破り、強制配転者の原職復帰に向け、全力で闘いぬく方針を確立した。

動力千葉の先頭で闘いぬこう

— 照岡支部長あいさつ —

大会は、関副支部長の開会あいさつで始まり、議長に滝口君を選出して進められた。

支部を代表して照岡支部長は「二八名の解雇撤回をかちとつた力で、清算事業団一二名の解雇撤回をかちとろう。今年も物販や地労委など組合員にいろいろ協力してもらった。来年も鴨川支部が先頭で頑張ろう」と力強くあいさつを行なった。

来賓あいさつでは、本部・田中書記長と水野勝浦市議があいさつが行なわれた。田中書記長からは、国鉄闘争などをめぐる状況が説明されるとともに、動力千葉の団結力が二八名の解雇撤回という風穴をさらに拡大するよう闘いをやりきろうという訴えが行なわれた。



一般経過報告、会計報告、九七年度運動方針案の定期が行なわれた後は質疑応答に入り、年令構成高齢化にともない退職条件の変化があるのかどうか、一旦指定した勤務の取り扱いの内容について、今のままの労働条件で六〇才までとても運転士はできない、指導操縦者の指定の問題など、活発な討論が行なわれた。

経過報告、運動方針が一括して採択された後、新役員を選出が行なわれ、最後に、照岡支部長の団結ガンバロー三唱で大会は成功裡に終了した。

総武支部大会開催

強制配転粉碎・予科生を運転士に!

いよいよ総武支部の“出番”

役職名	氏名	年令
支部長	照岡清一	四八
副支部長	関登喜雄	四八
書記長	大藤守紀	四七
執行委員	奈良輪孝	四九
	吉野六郎	四六
	庄司暁男	五二
	江沢利一	四七
特執	高梨孝蔵	四九
	鶴岡芳弘	五〇
会計監査	出水寿和	四八
	市東正晴	三九
	滝口義勝	五三

●一九九七年度新役員体制●



総武支部は、第十一回定期大会を十二月五日、蘇我勤労市民プラザにおいて開催し、九八年の闘う方針を全員一致で決定した。

総武支部は、全員が強制配転者等で作られていた支部で、それぞれの勤務場所がバラバラになっていて、なかで一同に集まること自体が「闘争」である。

早くから勤務を手配し、結集した仲間、和やかな雰囲気なかにも強制配転者の原職復帰、予科生を運転士に登用させるために総力で闘う決意をうち固めた。

大会の議長に今田(新小岩駅)さんを選出し、来賓に田中書記長を迎え集中した大会となった。

高野支部長は、あいさつで「分割・民営化で活動家が首を切られ運動場から多くの活動家が排除された。敵はJR総連だけ。一企業一組合の攻撃を加えてきたが見事粉碎し、団結を固め、闘いを継続している。特に

二八名の解雇撤回の成果は大きい。これも一人一人のふん張りの成果だ。この確信にたていよいよ強制配転粉碎、士職登用の闘いの先頭で頑張ろう」と強く訴えられた。

吉野書記長が運動方針を提起し、その後、真剣な討論を行い方針を決定した。

また大会終了後、忘年会を開催しつつその団結と親睦を深めてきたところである。

【だされた主な意見】
★強制配転粉碎の署名には他労組も含めてすごい反応がある。さらに広めよう。
★「勤務および休日のとりあつかい」について、実際ぶつかってみるといろんな問題が予想される。現場での力関係が核心。当局のいい加減さを許さないかまえば大事では。

★大月事故で、東労組は「運転士の責任」という「声明」をだしている。事故の背景とか本質にふれず自分らの組合員の運転士にすべて責任をかぶせるといふ、いかにも革マルらしい態度だ。徹底追求すべきだ。

【新たな執行部】

役職名	氏名	駅名
支部長	吉野幸成	西船橋駅
副支部長	大塚明	湖北駅
書記長	岡安正人	西船橋駅
執行委員	海老根常雄	船橋駅
	高野隆	船橋駅
会計監査	今田忍	新小岩駅